

各報道機関 様

KJ00704619
2026年8月19日

発信課	消防本部予防課
担当者	田中 義明
連絡先	電 話 0166-74-3584
	F A X 0166-33-1191
	E-mail yobo_sasatu@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 ☒ 募集 ☐ 契約・入札 ☐ 会議・説明会 ☐ その他 ☐
日 程	令和8年8月26日 9時40分 ～ 令和8年8月27日 14時30分
発表項目 (行事名)	令和8年度自衛消防訓練記録会の実施について
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	昭和60年度から毎年開催していた自衛消防隊訓練大会であるが、令和2年頃から感染拡大した新型コロナウイルスにより、令和4年度から訓練形態を見直し、記録会方式として実施。訓練後に実施したアンケート結果を考慮し、今年度も自衛消防訓練記録会として実施する。 1 件名 令和8年度自衛消防訓練記録会の実施について 2 日時 令和8年8月26日(水) 屋内消火栓の部 午前9時40分から午後2時40分まで 令和8年8月27日(木) 補助散水栓の部 午前9時15分から午後2時45分まで 給油取扱所の部 午後9時55分から午前11時30分まで 3 場所 旭川市東光27条8丁目 旭川市総合防災センター訓練ヤード 4 内容 各事業所から約100チームが参加し、屋内消火栓の部(3名1組)、補助散水栓の部(3名1組)、給油取扱所の部(2名1組)の各訓練種目に分かれて、通報・消火・避難誘導などの消防訓練を一連の流れで行う。
添付資料	有 ☒ 無 ☐
報道(取材)に当たってのお願い	コース横にセーフティコーンが置かれていますが、車両の進入防止用ですので、コースに近づき撮影することは可能です。
備 考	8月26日と8月27日で、訓練開始時刻及び訓練終了時刻が違いますので、来場される際はご注意ください。

屋内消火栓の部（8月26日） 実施順

A M

順序	開始予定時刻	終了予定時刻	事業所名	計測タイム
1	9:40	9:45	旭川市民文化会館	分 秒
2	9:45	9:50	旭川市公会堂	分 秒
3	9:50	9:55	旭川市スポーツ協会（旭川市総合体育館）	分 秒
4	9:55	10:00	旭川大雪アリーナ	分 秒
5	10:00	10:05	旭川市ときわ市民ホール（㈱旭川振興公社）	分 秒
6	10:05	10:10	東芝ホクト電子株式会社	分 秒
7	10:10	10:15	旭川市科学館サイバル	分 秒
	10:15	10:20	休憩	
	10:20	10:25	休憩	
8	10:25	10:30	北海道旅客鉄道株式会社 旭川支社	分 秒
9	10:30	10:35	花咲スポーツ公園スタルヒン球場	分 秒
10	10:35	10:40	北海道旅客鉄道株式会社 旭川現業事務所	分 秒
11	10:40	10:45	東光スポーツ公園ドリームスタジアム	分 秒
12	10:45	10:50	北海道旅客鉄道株式会社 旭川運転所	分 秒
13	10:50	10:55	独立行政法人国立病院機構旭川医療センター	分 秒
14	10:55	11:00	北海道旅客鉄道株式会社 旭川車掌所	分 秒
	11:00	11:05	休憩	
	11:05	11:10	休憩	
15	11:10	11:15	国立大学法人旭川医科大学 A	分 秒
16	11:15	11:20	旭川南病院	分 秒
17	11:20	11:25	国立大学法人旭川医科大学 B	分 秒
18	11:25	11:30	フィール旭川	分 秒
19	11:30	11:35	旭川市神楽市民交流センター	分 秒
20	11:35	11:40	あさひかわ農業協同組合	分 秒

P M

順序	開始予定時刻	終了予定時刻	事業所名	計測タイム
21	13:20	13:25	ホテルWBF グランデ旭川	分 秒
22	13:25	13:30	北海道警察旭川方面本部	分 秒
23	13:30	13:35	旭川ガス株式会社	分 秒
24	13:35	13:40	ベストブライス 神居店	分 秒
25	13:40	13:45	アイコニア・ホスピタリティー株式会社 アートホテル	分 秒
26	13:45	13:50	旭川トーヨーホテル	分 秒
27	13:50	13:55	旭川商工会議所	分 秒
	13:55	14:00	休憩	
	14:00	14:05	休憩	
28	14:05	14:10	旭川赤十字病院 A	分 秒
29	14:10	14:15	旭川市水道局	分 秒
30	14:15	14:20	旭川赤十字病院 B	分 秒
31	14:20	14:25	株式会社ベルックス旭川営業所	分 秒
32	14:25	14:30	旭川赤十字病院 C	分 秒
33	14:30	14:35	道北バス株式会社	分 秒
34	14:35	14:40	DCM 豊岡店	分 秒

補助散水栓の部（8月27日） 実施順

A M

順序	開始予定時刻	終了予定時刻	事業所名	計測タイム
1	9:15	9:20	老人保健施設グリーンライフ	分 秒
2	9:20	9:25	旭川市永山市民交流センター	分 秒
3	9:25	9:30	株式会社星野リゾート・マネジメント OM07旭川 by 星野リゾート	分 秒
4	9:30	9:35	医療法人社団恩和会 旭川高砂台病院	分 秒
5	9:35	9:40	社会福祉法人 旭川共生会	分 秒
6	9:40	9:45	スーパーアークスウェスタン北彩都	分 秒
7	9:45	9:50	社会医療法人元生会 森山メモリアル病院	分 秒
8	9:50	9:55	老人保健施設さくら館	分 秒
9	9:55	10:00	旭川リハビリテーション病院	分 秒
10	10:00	10:05	S Kたいせつの郷	分 秒
11	10:05	10:10	医療法人社団志恩会 相川記念病院	分 秒
12	10:10	10:15	特別養護老人ホーム 末広たいせつの郷	分 秒
13	10:15	10:20	くれたけイン旭川	分 秒
14	10:20	10:25	特別養護老人ホーム たいせつの郷	分 秒
15	10:25	10:30	旭川市総合庁舎	分 秒
16	10:30	10:35	医療法人社団博彰会 旭川記念病院	分 秒
	10:35	10:40	休憩	
	10:40	10:45	休憩	
17	10:45	10:50	旭川市大雪クリスタルホール	分 秒
18	10:50	10:55	ホテルクレセント旭川	分 秒
19	10:55	11:00	整形外科進藤病院	分 秒
20	11:00	11:05	医療法人社団心優会 沼崎病院	分 秒
21	11:05	11:10	パチンコ事業部ベガスベガス旭川店	分 秒
22	11:10	11:15	医療法人社団心優会 沼崎介護医療院	分 秒

A M

順序	開始予定時刻	終了予定時刻	事業所名	計測タイム
23	11:15	11:20	道北勤医協 一条通病院	分 秒
24	11:20	11:25	旭川三愛病院	分 秒
25	11:25	11:30	プレミアホテル-CABIN-旭川	分 秒
26	11:30	11:35	ベルクラシック旭川	分 秒
27	11:35	11:40	医療法人仁友会 介護老人保健施設みやびの森	分 秒

P M

28	13:20	13:25	医療法人社団慶友会 吉田病院	分 秒
29	13:25	13:30	医療法人社団弘和会 森産科婦人科病院	分 秒
30	13:30	13:35	医療法人社団圭泉会 介護老人保健施設 ことぶき	分 秒
31	13:35	13:40	ふれあいの里 華音	分 秒
32	13:40	13:45	医療法人社団圭泉会 デイケアセンターさわやかⅡ	分 秒
33	13:45	13:50	DCM宮前店	分 秒
34	13:50	13:55	老人保健施設かたくりの郷	分 秒
35	13:55	14:00	旭川十条病院	分 秒
36	14:05	14:10	ウエスタン川端店	分 秒
37	14:10	14:15	市立旭川病院	分 秒
38	14:15	14:20	ふれあいの里グループホーム まごころの贈り物	分 秒
39	14:20	14:25	介護老人保健施設フェニックス	分 秒
40	14:25	14:30	J R 旭川駅	分 秒
41	14:30	14:35	ふれあいの里グループホーム 花みずぎ	分 秒
42	14:35	14:40	スーパーアークス東光店	分 秒
43	14:40	14:45	社か医療法人元生会 森山病院	分 秒

給油取扱所の部（８月２７日） 実施順

順序	受付時間	開始予定時刻	終了予定時刻	事業所名	計測タイム
1	9:45	9:55	10:00	日東石油（株）A	分 秒
2	9:50	10:00	10:05	株式会社山田輪業	分 秒
3	9:55	10:05	10:10	日東石油（株）B	分 秒
	10:00	10:10	10:15	休憩	
4	10:05	10:15	10:20	茂田石油株式会社	分 秒
5	10:10	10:20	10:25	道北振興株式会社	分 秒
6	10:15	10:25	10:30	旭星クリーン株式会社	分 秒
7	10:20	10:30	10:35	旭川石油株式会社	分 秒
8	10:25	10:35	10:40	(株)ホクレン油機サービス ホクレン永山2条給油所	分 秒
9	10:30	10:40	10:45	旭川食糧株式会社	分 秒
10	10:35	10:45	10:50	五東石油株式会社	分 秒
	10:40	10:50	10:55	休憩	
	10:45	10:55	11:00	休憩	
11	10:50	11:00	11:05	(株)野口商店 動物園通り給油所	分 秒
12	10:55	11:05	11:10	北海道エネルギー株式会社 道北支店A	分 秒
13	11:00	11:10	11:15	株式会社オカモト セルフ永山店 株式会社オカモト セルフ末広店	分 秒
14	11:05	11:15	11:20	北海道エネルギー株式会社 道北支店B	分 秒
15	11:10	11:20	11:25	J Aたいせつ 東鷹栖SS J Aたいせつ 鷹栖SS	分 秒
16	11:15	11:25	11:30	北海道エネルギー株式会社 道北支店C	分 秒

屋内消火栓の部・訓練内容

1 概 要

自衛消防隊員 3 人一組による 1 1 9 番通報・初期消火・避難誘導等一連の訓練であり、次の操作を決められた設定の中で実施し、参考として計時を行う。

- (1) 出火点の確認
- (2) 1 1 9 番通報（第 1 通報「自動火災報知設備の発報」・第 2 通報「火災通報」）
- (3) 非常放送
- (4) 消火器による模擬火災消火（イソプロピルアルコールに着火し、水消火器を使用して消火する。）
- (5) 屋内消火栓からの放水
- (6) 要救助者 1 人の誘導及び救護
- (7) (6)以外の者の避難誘導
- (8) 公設消防隊への情報の伝達

2 隊員の操作要領

3 人をそれぞれ通報員・消火員・誘導員とする。

(1) 通報員

通報員は、受信機で出火点を確認、電話機で文例に沿った 1 1 9 番通報（第 1 通報）を行った後、火災確認中の非常放送を行う。

次に、誘導員からの火点を確認した旨の伝達を受けた後、第 2 通報を行う。

続いて、火災確認後の非常放送を行い、その後、避難の確認を行いながら退避し、屋外に避難済みの要救助者の救護にあたる。

(2) 消火員

消火員は、受信機で出火点を確認、手元の消火器を携行し、通路・煙道を通して出火点に至り模擬火災（オイルパン）を消火する（消火に失敗した場合は、予備消火器を使用する。）。

次に、出火点付近の避難状況を確認、誘導員と協力して要救助者を非常口まで誘導し、その後、誘導員と 2 人で屋内消火栓ボックスからホースを延長し、放水する。的に命中させた後、水圧が無くなるのを待ってその場にホースを置き、避難の確認を行いながら退避する。

(3) 誘導員

誘導員は、受信機で出火点を確認後、「火点は 1 階。」と呼称し、通路途中の予備消火器を携行し、煙道を通して出火点に至り、出火点付近の各部屋に火災発生の伝達と避難の指示を行う。

次に、待機室に戻り「1 階、厨房が燃えています。」と呼称し通報員に火災の発生場所を伝達する。

再度、通路・煙道を通して出火点付近に戻り、各部屋の避難状況を確認し消火員と協力して要救助者を非常口まで誘導する。

その後、消火員と 2 人で屋内消火栓ボックスから延長し消火員の補助にあたる。消火員がホースを置いた後、避難の確認を行い退避する。

※ 退避後、代表者は公設消防隊に情報を伝達する。

3 操作上の注意事項

- (1) 待機室から通路に出るときは、ヘルメット・手袋を着用すること。
- (2) 落ち着いて確実に操作し、危険防止に努めること。
- (3) 確認等の呼称は、大きな声ではっきり行うこと。
- (4) 屋内消火栓は、2 人で操作すること。
- (5) 屋内消火栓による放水終了時、ホースは残圧が無くなるまで離さないこと。

訓練内容詳細（屋内消火栓の部1）

隊員の動作	合図等	動作の内容			注意事項
		通報員	消火員	誘導員	
1 待機		待機室①に待機する。	待機室①に待機する。	待機室①に待機する。	ゼッケンをつけ着席する。 ヘルメット・軍手は着用しない。
2 受信機による 火点の確認 操作の開始	受信機(a)②のベルが鳴り、表示灯が点灯する。	受信機(a)②の前に至り、誘導員の呼称を聞き、出火点を確認する。	受信機(a)②の前に至り、誘導員の呼称を聞き、出火点を確認する。 備え付けのヘルメット・軍手(b)⑤を着用する。	受信機(a)②の前に至り、出火点を確認し「火点は1階」と呼称する。 備え付けのヘルメット・軍手(b)⑤を着用する。	計時は、ベルの鳴動と同時に開始する。
3 第1通報及び 非常放送		電話機(a)③により、119番通報(第1通報)をする。 ((a)④の文例1を読む。) マイク⑪により、確認中の非常放送をする。 ((a)④の文例3を読む。)	(手元の消火器を携行し、通路・煙道⑦を通過して出火室に至る。)	(通路途中の予備消火器を携行し、通路・煙道⑦を通過して出火室に至る。)	通報は、正確にゆっくりと落ち着いて行うこと。
4 火点の確認			扉⑨を開け、火点を確認する。	扉⑨を開け、火点を確認する。	扉は一気に開かない。 扉を開けるのは、消火員・誘導員のどちらでもよい。
5 消火器による 初期消火	消火完了 合図の旗と笛		携行した消火器を使用し、初期消火する。		
6 火災発生の 伝達と避難誘導			消火器をその場に置き、扉⑨を閉め、A室⑬・B室⑭の避難状況の確認に向かう。	付近に火災発生の伝達と避難の指示を行う。 「火事です！避難してください！」（2回繰り返す。）	予備消火器⑮は、出火室のドア⑨前に置く。
7 火点の伝達				待機室①に戻り、「1階厨房が燃えています。」と呼称し、通報員に伝達する。	
8 第2通報及び 非常放送		誘導員の伝達を受けた後、電話機(a)③により119番通報(第2通報)をする。 ((a)④の文例2を読む。) マイク(a)⑪により、確認後の非常放送（避難放送）をする。 ((a)④の文例4を読む。)			非常放送は、避難する人を落ち着かせるように、ゆっくりとはっきり行う。

訓練内容詳細（屋内消火栓の部２）

隊員の動作	合図等	動作の内容			注意事項
		通報員	消火員	誘導員	
9 避難誘導と救護		備え付けのヘルメット・軍手(b)⑤を着用する。 救急箱、毛布(b)⑥を携行し、避難誘導行動を取りながら非常口を通り、救護所⑨に収容している要救助者の救護に当たる。	A室⑬・B室⑭の避難状況を確認する。 (部屋の中まで入る。) 誘導員と協力してB室⑭から要救助者を非常口まで避難誘導する。 通路に戻って消火栓ボックス⑮に向かう。 起動ボタンを押し、扉を開け簡先ホースを持って、通路からはみ出さないように、誘導員と協力して放水線⑰までホースを延長する。 放水線手前で簡先をしっかりと持ち、「放水始め!」と呼称し、水が来るのを待つ。 放水し、的⑱に当てる。 (水の圧力がなくなるのを待って、ホースをその場に置く。) 避難誘導行動を取りながら非常口を通り、避難場所⑳に退避する。	待機室①よりメガホン(b)⑩を持ち、避難誘導場所⑫に至り、「非常口はこちらです!落ち着いて避難してください!」と指示し、煙道⑦を通り避難状況の確認をする。 消火員と協力してB室⑭から要救助者を非常口まで避難誘導する。 必要な指示を与える。 通路に戻って消火栓ボックス⑮に向かう。 消火員を補助して、折れ曲がりなどがないようにホースを延長する。 伝令線⑲内で消火員の「放水始め!」の合図を受け、通路を戻り、消火栓ボックスのバルブを開ける。 バルブを開けた後、伝令線⑲内でホースを持ち、消火員の補助に当たる。 (水の圧力がなくなるのを待って、ホースをその場に置く。) 避難誘導行動を取りながら非常口を通り、避難場所⑳に退避する。	避難の確認後、消火員と誘導員は、必要な連絡を取り合う。 A室⑬・B室⑭の確認は誘導員が行ってもよい。 【指示事項例】 身体に触れて ・火事です。避難してください。 ・姿勢を低くしてください。 ・こちらから避難してください。 屋内消火栓は、必ず2人で操作すること。 放水線⑰を越えないこと。 誘導員のメガホンは、屋内消火栓付近に置く。 計時は係員の合図で終了。 合図の後、屋内消火栓のボックスのバルブは係員が閉める。 代表者は公設消防隊に情報を伝達する。
10 屋内消火栓による初期消火					
11 操作の終了					
12 情報の提供					
13 解散					
	的に命中 合図と旗と笛				

通報員の通報及び非常放送要領

○第1通報（文例－1）＜電話機使用＞

通報員	消 防
「火災報知機がなっています。」 「〇条〇丁目〇〇〇〇（事業所名）です。」	「119番消防です。」 「火事ですか？救急ですか？」 「場所はどこですか？」 「わかりました。消防車出動します。」

○第2通報（文例－2）＜電話機使用＞

通報員	消 防
「火事です。」 「先ほど通報した、〇条〇丁目〇〇〇〇です。」 「1階、厨房が燃えています。」	「119番消防です。」 「火事ですか？救急ですか？」 「場所はどこですか？」 「何が燃えていますか？」 「消防車、現在向かっています。」

○確認中非常放送（文例－3）＜マイク使用＞

「お客さま（入院患者の皆さん）にお知らせします。」 「ただ今、火災報知機が作動しましたが、確認中ですので係員の指示があるまでお待ちください。」 － 2 回繰り返す－
--

○確認中非常放送（文例－4）＜マイク使用＞

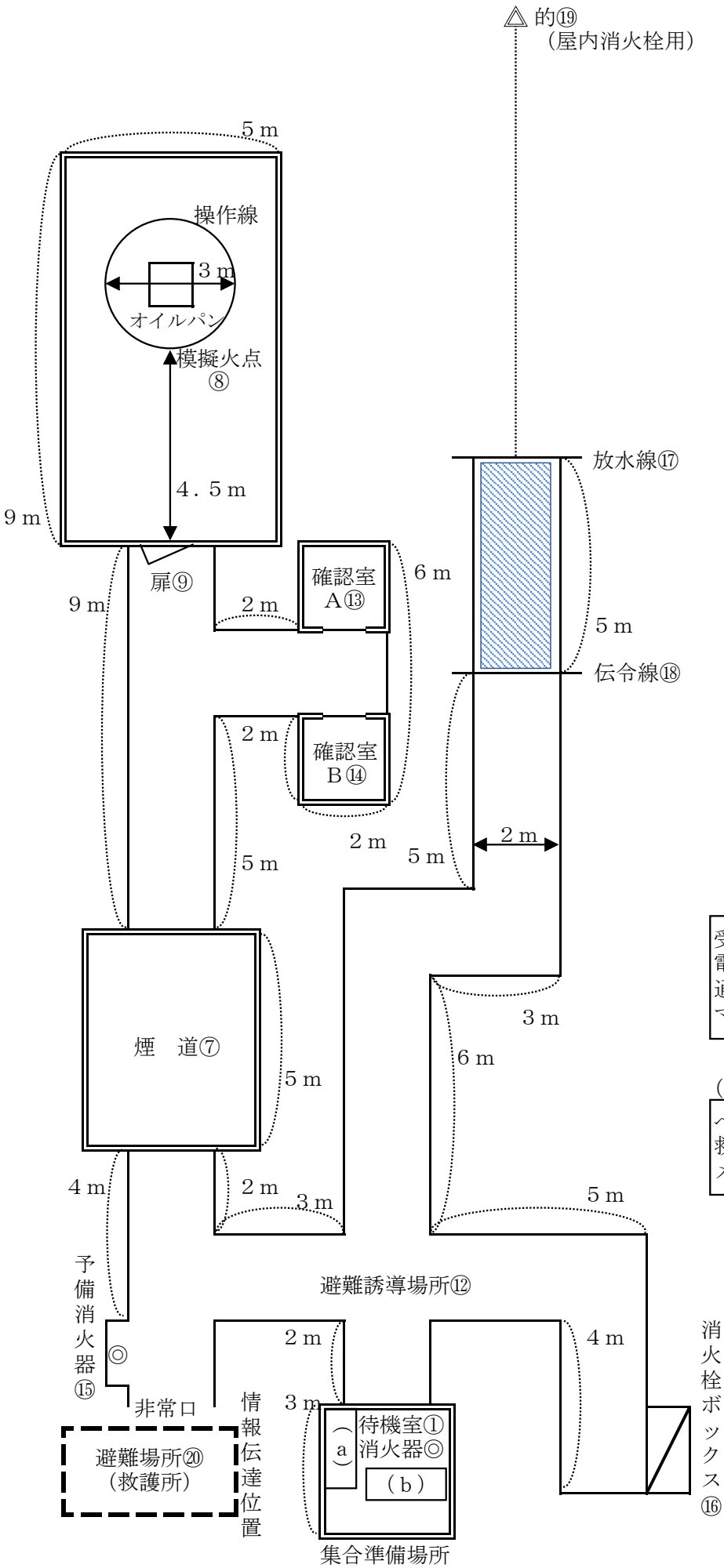
「お客さま（入院患者の皆さん）にお知らせします。」 「ただ今、1階厨房から火災が発生しました。」 「お客さま（入院患者の皆さん）は、係員の指示にしたがって落ち着いて避難してください。」 － 2 回繰り返す－
--

公設消防隊への情報伝達文例

「〇〇〇〇（事業所名）自衛消防隊の〇〇です。」 「厨房の火災は消火しました。」 「なお、在館者50名、従業員3名の全員が正面の屋外駐車場に避難しています。」 「けが人はいません。」

- 大会当日の設定
在館者（入院患者・宿泊客・買い物客）は50名で、従業員は自衛消防隊の3名とし、全員が正面の屋外駐車場に避難したと仮定する。
また、厨房の火災は、自衛消防隊が消火したものとする。
- 情報伝達の内容
 - 火災の状況――消火済み
 - 避難の状況――在館者50名・従業員3名の全員が避難完了
 - けが人の有無――けが人なし

屋内消火栓用コース



- (a)
- 受信機②
 - 電話機③
 - 通報文例④
 - マイク⑪

- (b)
- ヘルメット・軍手⑤
 - 救急箱・毛布⑥
 - メガホン⑩

補助散水栓の部・訓練内容

1 概 要

自衛消防隊員 3 人一組による 1 1 9 番通報・初期消火・避難誘導等一連の訓練であり、次の操作を決められた設定の中で実施し、参考として一定区間における計時を行う。

- (1) 出火点の確認
- (2) 1 1 9 番通報（第 1 通報「自動火災報知設備の発報」・第 2 通報「火災通報」）
- (3) 非常放送
- (4) 消火器による模擬火災消火（イソプロピルアルコールに着火し、水消火器を使用して消火する。）
- (5) 補助散水栓からの放水
- (6) 要救助者 1 人の誘導及び救護
- (7) (6)以外の者の避難誘導
- (8) 公設消防隊への情報の伝達

2 隊員の操作要領

3 人をそれぞれ通報員・消火員・誘導員とする。

(1) 通報員

通報員は、受信機で出火点を確認、電話機で文例に沿った 1 1 9 番通報（第 1 通報）を行った後、火災確認中の非常放送を行う。

次に、誘導員からの火点を確認した旨の伝達を受けた後、第 2 通報を行う。

続いて、火災確認後の非常放送を行い、その後、避難の確認を行いながら退避し、屋外に避難済みの要救助者の救護にあたる。

(2) 消火員

消火員は、受信機で出火点を確認、手元の消火器を携行し、通路・煙道を通して出火点に至り模擬火災（オイルパン）を消火する（消火に失敗した場合は、予備消火器を使用する。）。

次に、出火点付近の避難状況を確認、誘導員と協力して要救助者を非常口まで誘導し、その後、1 人で補助散水栓ボックスからホースを延長し、放水する。的に命中させた後、筒先バルブを閉じてその場にホースを置き、避難の確認を行いながら退避する。

(3) 誘導員

誘導員は、受信機で出火点を確認後、「火点は 1 階。」と呼称し、通路途中の予備消火器を携行し、煙道を通して出火点に至り、出火点付近の各部屋に火災発生の伝達と避難の指示を行う。

次に、待機室に戻り「1 階、厨房が燃えています。」と呼称し通報員に火災の発生場所を伝達する。

再度、通路・煙道を通して出火点付近に戻り、各部屋の避難状況を確認し消火員と協力して要救助者を非常口まで誘導する。

その後、出火点付近の各部屋の再確認を行い、消火員と協力して避難の確認を行いながら退避する。

※ 退避後、代表者は公設消防隊に情報を伝達する。

3 操作上の注意事項

- (1) 待機室から通路に出るときは、ヘルメット・手袋を着用すること。
- (2) 落ち着いて確実に操作し、危険防止に努めること。
- (3) 確認等の呼称は、大きな声ではっきり行うこと。
- (4) 補助散水栓は、1 人で操作すること。
- (5) 補助散水栓による放水終了時、必ず筒先のバルブを閉じてからホースを置くこと。

訓練内容詳細（補助散水栓の部1）

隊員の動作	合図等	動作の内容			注意事項
		通報員	消火員	誘導員	
1 待機		待機室①に待機する。	待機室①に待機する。	待機室①に待機する。	ゼッケンをつけ着席する。 ヘルメット・軍手は着用しない。
2 受信機による 火点の確認 操作の開始	受信機(a)②のベルが鳴り、表示灯が点灯する。	受信機(a)②の前に至り、誘導員の呼称を聞き、出火点を確認する。	受信機(a)②の前に至り、誘導員の呼称を聞き、出火点を確認する。 備え付けのヘルメット・軍手(b)⑤を着用する。	受信機(a)②の前に至り、出火点を確認し「火点は1階」と呼称する。 備え付けのヘルメット・軍手(b)⑤を着用する。	計時は、ベルの鳴動と同時に開始する。
3 第1通報及び 非常放送		電話機(a)③により、119番通報(第1通報)をする。 ((a)④の文例1を読む。) マイク⑪により、確認中の非常放送をする。 ((a)④の文例3を読む。)	(手元の消火器を携行し、通路・煙道⑦を通過して出火室に至る。)	(通路途中の予備消火器を携行し、通路・煙道⑦を通過して出火室に至る。)	通報は、正確にゆっくりと落ち着いて行うこと。
4 火点の確認			扉⑨を開け、火点を確認する。	扉⑨を開け、火点を確認する。	扉は一気に開かない。 扉を開けるのは、消火員・誘導員のどちらでもよい。
5 消火器による 初期消火	消火完了 合図の旗と笛		携行した消火器を使用し、初期消火する。		
6 火災発生 の伝達と避難誘導			消火器をその場に置き、扉⑨を閉め、A室⑬・B室⑭の避難状況の確認に向かう。	付近に火災発生伝達と避難の指示を行う。 「火事です！避難してください！」（2回繰り返す。）	予備消火器⑮は、出火室のドア⑨前に置く。
7 火点の伝達				待機室①に戻り、「1階厨房が燃えています。」と呼称し、通報員に伝達する。	
8 第2通報及び 非常放送		誘導員の伝達を受けた後、電話機(a)③により119番通報(第2通報)をする。 ((a)④の文例2を読む。) マイク(a)⑪により、確認後の非常放送(避難放送)をする。 ((a)④の文例4を読む。)			非常放送は、避難する人を落ち着かせるように、ゆっくりとはっきり行う。

訓練内容詳細（補助散水栓の部２）

隊員の動作	合図等	動作の内容			注意事項
		通 報 員	消 火 員	誘 導 員	
9 避難誘導と救護	的に命中 合図と旗と笛	備え付けのヘルメット・軍手(b)⑤を着用する。	A室⑬・B室⑭の避難状況を確認する。 (部屋の中まで入る。)	待機室①よりメガホン(b)⑩を持ち、避難誘導場所⑫に至り、「非常口はこちらです！落ち着いて避難してください！」と指示し、煙道⑦を通り避難状況の確認をする。	避難の確認後、消火員と誘導員は、必要な連絡を取り合う。 A室⑬・B室⑭の確認は誘導員が行ってもよい。
10 補助散水栓による初期消火		救急箱、毛布(b)⑥を携行し、避難誘導行動を取りながら非常口を通り、救護所⑨に収容している要救助者の救護に当たる。	誘導員と協力してB室⑭から要救助者を非常口まで避難誘導する。 通路に戻って散水栓ボックス⑮に向かう。	消火員と協力してB室⑭から要救助者を非常口まで避難誘導する。 必要な指示を与える。	【指示事項例】 身体に触れて ・火事です。避難してください。 ・姿勢を低くしてください。 ・こちらから避難してください。
			扉を開け散水栓ボックスのバルブを開けた後、筒先を持って、通路からはみ出さないように1人で放水線⑰までホースを延長する。 放水線手前で筒先をしっかりと持ち、筒先のバルブを開け放水し⑱に当てる。	再度、煙道⑦を通り、A室⑬・B室⑭の避難状況を確認する。	補助散水栓は、必ず1人で操作すること。 放水線⑰を越えないこと。
11 操作の終了			(筒先のバルブを閉じて放水を終了しホースをその場に置く。)		計時は係員の合図で終了。 合図の後、補助散水栓のボックスのバルブは係員が閉める。
12 情報の提供		非常口付近の情報伝達位置に集合する。	非常口付近の情報伝達位置に集合する。	非常口付近の情報伝達位置に集合する。	代表者は公設消防隊に情報を伝達する。
13 解 散		リーダーの合図で解散する。	リーダーの合図で解散する。	リーダーの合図で解散する。	

通報員の通報及び非常放送要領

○第1通報（文例－1）＜電話機使用＞

通報員	消 防
「火災報知機がなっています。」 「〇条〇丁目〇〇〇〇（事業所名）です。」	「119番消防です。」 「火事ですか？救急ですか？」 「場所はどこですか？」 「わかりました。消防車出動します。」

○第2通報（文例－2）＜電話機使用＞

通報員	消 防
「火事です。」 「先ほど通報した、〇条〇丁目〇〇〇〇です。」 「1階、厨房が燃えています。」	「119番消防です。」 「火事ですか？救急ですか？」 「場所はどこですか？」 「何が燃えていますか？」 「消防車、現在向かっています。」

○確認中非常放送（文例－3）＜マイク使用＞

「お客さま（入院患者の皆さん）にお知らせします。」
「ただ今、火災報知機が作動しましたが、確認中ですので係員の指示があるまでお待ちください。」

－ 2 回繰り返す－

○確認中非常放送（文例－4）＜マイク使用＞

「お客さま（入院患者の皆さん）にお知らせします。」
「ただ今、1階厨房から火災が発生しました。」
「お客さま（入院患者の皆さん）は、係員の指示にしたがって落ち着いて避難してください。」

－ 2 回繰り返す－

公設消防隊への情報伝達文例

「〇〇〇〇（事業所名）自衛消防隊の〇〇です。」
「厨房の火災は消火しました。」
「なお、在館者50名、従業員3名の全員が正面の屋外駐車場に避難しています。」
「けが人はいません。」

- 大会当日の設定
在館者（入院患者・宿泊客・買い物客）は50名で、従業員は自衛消防隊の3名とし、全員が正面の屋外駐車場に避難したと仮定する。
また、厨房の火災は、自衛消防隊が消火したものとする。
- 情報伝達の内容
 - 火災の状況――消火済み
 - 避難の状況――在館者50名・従業員3名の全員が避難完了
 - けが人の有無――けが人なし

給油取扱所の部・訓練内容

1 概要

給油取扱所において、自動車に給油中、給油ノズルが給油口から外れて軽油が漏えい。排水溝から油分離槽に入った軽油の火災が発生する想定とする。

自衛消防隊員 2 名による通報・危険物漏えい拡散防止・初期消火・避難誘導等一連の訓練であり、次の操作を実施し、参考として計時を行う。

- (1) 漏えい箇所の確認
- (2) 119 番通報（漏えいの通報）
- (3) 固定給油設備の停止
- (4) 車両の給油口閉鎖
- (5) 吸着マットによる拡散防止
- (6) 客の避難誘導
- (7) 油分離槽内の漏えい軽油汲み上げ回収
- (8) 消火器による模擬火災消火
- (9) 公設消防隊への情報伝達

2 隊員の操作要領

(1) 通報員（危険物保安監督者）

通報員は、給油取扱所内の異常を確認（ベル鳴動を異常の発生とする）するため、誘導員に指示を出し 2 人で現場状況の確認を行い、軽油漏えい確認後、誘導員に固定給油設備の停止と車両内の客の避難誘導及び吸着マット（ウエスを吸着マットと想定する）による漏えい軽油の拡散防止を指示する。次に電話で 119 番通報を行い、その後、誘導員と共に漏えい軽油の拡散防止や油分離槽内の漏えい軽油の除去作業（ヒシヤク及びバケツを使い、油に見立てたボールの汲み上げ）を行う。「油に火がついたぞ！」の合図で、誘導員と共に消火活動位置へ至り、消火完了後、退避する。

退避後、公設消防隊に情報の伝達（完了報告）を行う。

(2) 誘導員

誘導員は、通報員の指示により、軽油漏えいを 2 人で確認する。通報員の指示を受け、給油ノズルを固定給油設備に戻し、車両内の客を敷地外に避難誘導後、吸着マットで漏えい軽油の拡散防止を行う。その後、通報員と油分離槽内の漏えい軽油の除去作業を行う。「油に火がついたぞ！」の合図で、模擬火災の消火を行い、退避する。

3 操作上の注意事項

- (1) 操作前にヘルメット・ゼッケン・手袋を着用すること。
- (2) 落ち着いて確実に操作し、危険のないように留意すること。
- (3) 確認等の呼称は、大きな声ではっきり行うこと。

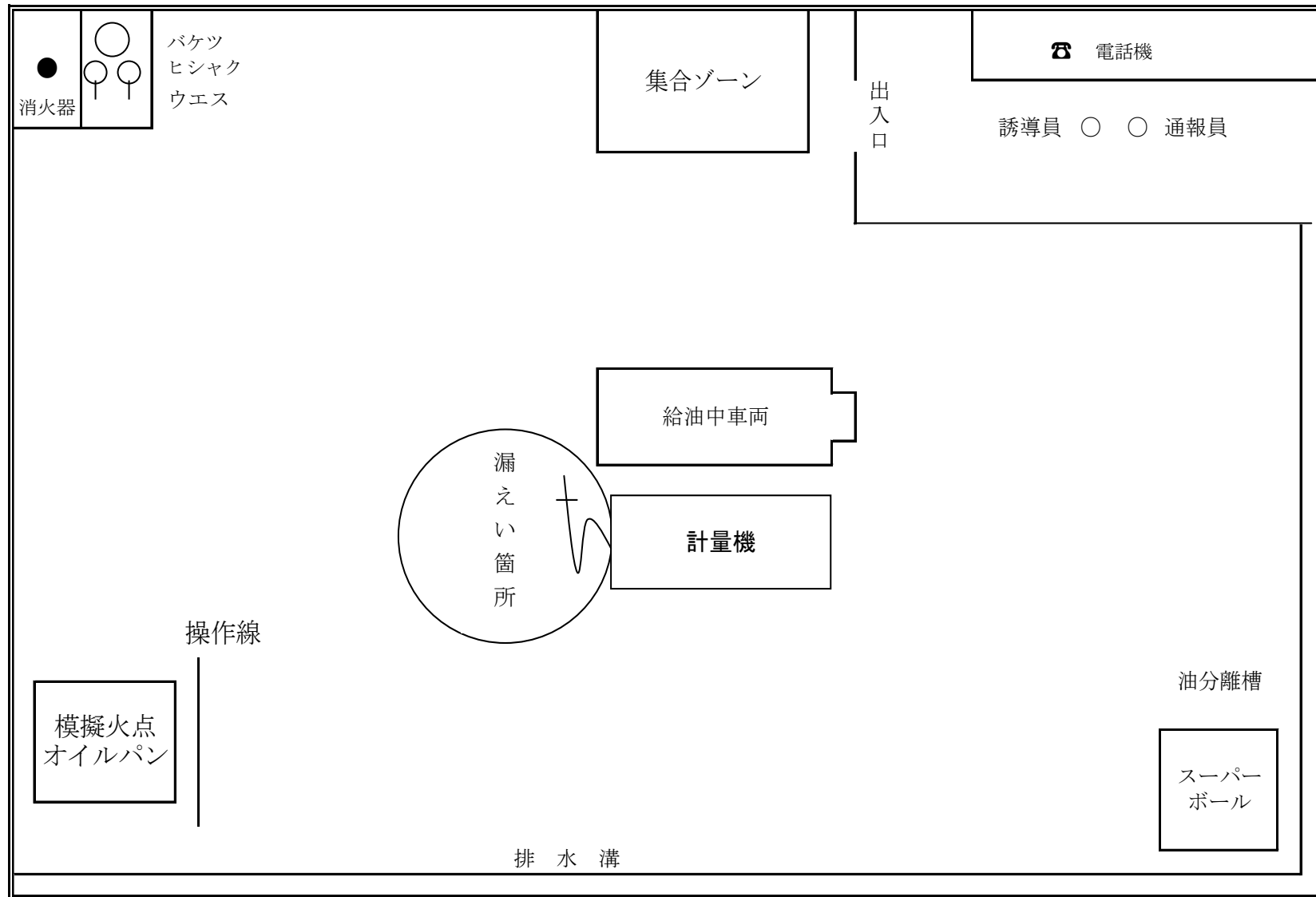
訓練内容詳細（給油取扱所の部1）

隊員の動作	合 図 等	動 作 の 内 容		注 意 事 項
		通 報 員	誘 導 員	
1 待 機		事務所に待機する。	事務所に待機する。	集合場所で事前にゼッケン・ヘルメット・軍手を着用しておく。
2 操作の開始	警報機のベルが鳴る。	「異常の確認」と呼称し、誘導員とともに事務所から出て、確認位置へ至る。	通報員とともに事務所から出て、確認位置へ至る。	計時は、ベルの鳴動と同時に開始する。
3 漏えい防止及び避難誘導		誘導員へ「機器の停止、避難誘導、漏えい油回収」を指示する。	通報員の指示を受け、給油ノズルを元の位置に戻して、車両の給油口の蓋を閉める。 客に避難の指示をして、敷地外へ誘導する。 ウエス3枚とヒシャク2本入りバケツ1個と消火器1本を携帯し、漏えい箇所に至り漏えい防止を行う。	漏えい防止は、漏えい油の上にウエスを2枚広げる。 (ウエスは1枚残す。)
4 通 報		誘導員に指示を与えた後、事務所に戻り電話機にて119番通報を行う。 (文案は注意事項欄に記載)		消防：119番消防です。火事ですか？ 救急ですか？ 通報：自動車に給油中、軽油が漏えいしました。 消防：場所はどこですか？ 通報：〇条〇丁目〇〇スタンドです。 消防：わかりました。消防車出動します。
		通報後、漏えい箇所に至り、消火員とともに漏えい防止を行う。	通報員と協力して作業を行う。	
5 分離槽内の軽油汲み上げ		誘導員と協力して、分離槽内の漏えい油（スーパーボール）を、ヒシャクを用いてバケツに汲み上げる。 作業終了後、ウエス1枚を分離槽の上にかぶせる。		消火器は常に携帯する。
6 初期消火	漏えい油回収の完了後に、漏えいした軽油に着火したという想定で、「油に火がついたぞ!」の合図を行う。	係員の「油に火がついたぞ!」の合図後、誘導員とともに消火器を携行して消火位置に至り、消火に当たる。	通報員とともに消火器を携行して消火位置に至り、消火に当たる。	係員の消火完了の合図で終了とする。 消火作業はどちらが実施してもよいものとする。
7 操作の終了		消火完了後、集合ゾーンに至り、隊員に異常がないか確認する。	消火完了後、集合ゾーンに集まる。	集合ゾーンに2名が入った時点で、計時終了する。
8 訓練終了報告		公設消防隊（審査員）に情報伝達（完了報告）をする。		「自衛消防隊の〇〇です。」 「火災は消火しました。漏えいした軽油は回収しました。ケガ人はいません。」
9 解 散		解散を指示する。		

全体の注意事項

- ※1 落ち着いて確実に操作し、危険のないように留意してください。
- ※2 確認等の呼称は、大きな声ではっきり行ってください。

給油取扱所用コース図



○ 予備消火器

通報文例

消防「119番消防です。火事ですか？救急ですか？」

通報「自動車に給油中、軽油が漏えいしました。」

消防「場所はどこですか？」

通報「〇条〇丁目〇〇スタンドです。」

（混成チームは、通報者の勤務しているスタンドの住所と名称を通報してください。）

消防「わかりました。消防車出動します。」

報告文例

「自衛消防隊の〇〇です。」

「火災は消火しました。」

「漏えいした軽油は回収しました。」

「けが人はいません。」